



松が谷中学校だより

<https://hachioji-school.ed.jp/mtgyj/>

令和8年7月1日
第2号
地域運営学校
八王子市立松が谷中学校

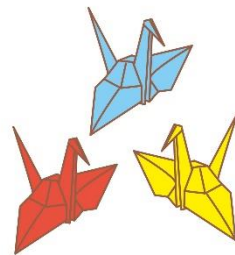
命と平和について考えを深める時間を作ろう

校長 川島 隆

梅雨空が続き、台風の上陸や地震の発生回数も普段より多く感じられ、自然災害に対する備えや心構えなどに時間を費やす日々が多くなった気がします。本格的な夏が待ち遠しい反面、気候変動がもたらす動植物への影響も気になります。日本は地震大国の一つです。地震や自然災害に強い街作りの法整備を通して、建物や道路、河川の崩壊などの報道に関心をもって見ていますが、想定を超える災害が近年頻発しているようです。人の歴史と災害の歴史は深い関係があり、災害に立ち向かう工夫が科学技術の発展の基礎になっています。医学の発展も同様です。病気を治す薬品の開発は、平均寿命を80歳以上に押し上げました。長寿国のトップランクにいます。

私たちの命は、代々受け継がれてきたものです。私たちの祖先は、様々の苦難を乗り越えながら命のバトンを次から次へと受け渡してきました。そして、今の自分が誕生しているのです。貴重な命のバトンの末に自分が存在していることを誰に感謝したら良いのでしょうか。確かな事実は、皆それぞれに祖先があることです。そして、今を共有している仲間たちに縁の不思議さと仲間意識をもち、お互いの存在と命を大切にす行動の一つでも多く経験をして、後の子孫に引き継いでいきましょう。

毎年6月から8月にかけて、81年前（1945年）に終わった太平洋戦争の話題がメディアで取り上げられます。唯一の被爆国日本にとって世界に語りかけることは何かを考えながら、世界と対話をしなければなりません。平和を考える上で、忘れてはならない代表的な日は、4つあると思います。6月23日（沖縄慰霊の日）、8月6日（広島原爆の日）、8月9日（長崎原爆の日）、8月15日（終戦の日）です。テレビや新聞等でこの時期は様々な特集が組まれます。残念なことですが、当時の経験を語られる人も年々少なくなりました。その時代にも私たちの祖先は生活していて、生き抜いていてくれたからこそ今の自分がいるのです。後から来る人たちに何を残しておくべきなのかを考えておきましょう。



3年生は6月に東北方面（宮城県、岩手県）に修学旅行に行きました。

2011年3月11日に起きた東日本大震災の遺構を見学し、災害の悲惨さと復興の現状について説明を受けました。この修学旅行で得たことが大きな転機となり、自分の人生の方向性が見えてきたと思います。大げさに言うならば、人生の分岐点に立った修学旅行であったと思います。これはおそらくもうしばらくしたら、そのように感じることでしょう。この目で見えてきたもの、その場で感じたことをどのようにこれからの人生で活かしていくのか、それぞれの視点で考える良い機会になったことでしょう。1、2年生も後に続きます。来年以降も有意義な修学旅行にしてください。

夏草や
兵どもが
夢のあと



松島や
ああ松島や
松島や



五月雨を
降り残してや
光堂



左上→南三陸町防災対策庁舎

3階建てで、屋上は約12mだが、15.5mの津波が押し寄せ、53名が避難したが生還は11名だった。

右上→奇跡の1本松

高田松原にあった約7万本の松林の中で津波に耐えて残った1本の松。翌年に枯死が確認され、「モニュメント」として、同じ場所に複製された。

左下→高野会館（民間の冠婚葬祭会場）

当日は催し物があり、屋上に避難して約330名が助かった。4階建ての建物。

